

# CULIB NEWS

## 「伝統の継承と革新に進む図書館」

中京大学図書館長 佐藤 隆

新年度を迎えました。新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。二年生以上の学部生や院生の皆様、迎えられたこの一年間の毎日を有意義に過ごされ、成果ある年になることを祈念いたします。

中京大学図書館の構成を紹介します。名古屋キャンパスに「名古屋図書館」と「ライブラリーサービスセンター（LSC）」また「法学文献センター」があり、豊田キャンパスに「豊田図書館」があります。

特別空間としては、「名古屋図書館」と「豊田図書館」に、「ラーニングスクエア」と呼ぶ会話型空間があります。そこでは、グループで討議し学習を深めることや、プレゼンの試行をすることができます。パソコンの貸し出しも用意しました。ご自由に利用して下さい。

研究調査支援の面では、中京大学学術雑誌解放のため、学術論文のリポジトリ化を進めています。ゼミ発表の時や研究調査の時の資料収集作成には、図書館の「学術情報リポジトリ」にアクセスしてご利用下さい。

図書館が大学での学習や教育や研究において、重要な施設であることは周知の事実ですが、その施設や機能に対して革新の高波が押し寄せています。特にインターネット利用による学術情報や様々な分野のデータベース・電子ジャーナルなど、従来とはことなる様式のデータをどのように収集し提供すべきか。また、受け身型の図書館から脱却して、アクティブラーニングにどのように関与すべきかなどの課題があります。伝統の様式を継承しながら最



グループに分かれてディベートする学生たち（豊田図書館ラーニングスクエア）

善の革新的な方法を模索していますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

今回も、絶滅危惧種である上代古典文学の中の、『万葉集』世界の魅力をお伝えいたします。先回は奈良時代前の持統朝の高市黒人歌を紹介しましたので、同じ時代の長奥麻呂歌を紹介しましょう。

一二の目 のみにはあらず 五六三

四さへありけり 双六の顔（16三八二七）

（一二の目だけじゃない。五六三、四の目まであったわい。双六のサイコロには。）

です。双六遊びのサイコロの目すべてを詠み込んで一首とした、やはり数字遊びの戯笑歌です。奥麻呂歌を聞いた当時の人々の笑い声が聞こえそうです。持統朝に急激に進化し幅を広げた和歌文芸が生んだ遊芸の世界です。ただし、注意が必要です。陣地取り遊戯の双六が中国から渡来すると、上代の人々は賭け勝負をし、財産から最愛の妻まで失う人々が続出しました。持統朝から双六禁止令がたびたび出ています。サイコロによって人生が激変し、奈落の底に落ちた人たちへの揶揄でもありましょう。

でも、世に生きる人間には、着実な日々の生活とともに遊戯は不可欠でしょう。正確な方向性が求められる車のハンドルにも「遊び」が付けられています。うまく「遊び」と付き合ひましょう。



双六盤とサイコロ（江戸時代）玉川大学教育博物館蔵

## CULIB HISTORY

## 「クリブヒストリー」

## — 図書館の過去・現在・未来 —

## 第2章

## 発展期（2000～2009年）

中京大学図書館は、21世紀の幕開けの2001年から2年間で、私立大学図書館協会の会長校を務めた。会長校としての活動範囲は東海・中部地区にとどまらず、北海道から沖縄まで全国に及び、大学図書館や地域における大学の役割など多数の情報を得ることができた。今号では、最新設備や迅速なサービスを提供している本学図書館の礎となった会長校時代（2001～2002年）の活動を中心に、2000～2009年の発展期について振り返る。

## 第1節 校倉造りの図書館本館

現在の名古屋図書館の前身となる図書館本館は、昭和44（1969）年に現図書館と同じ場所に建てられた。それまで図書室程度の規模だった施設を、大学の図書館にふさわしく威風堂々とした建物にしようと、奈良の正倉院を模して校倉造りの建築様式が取り入れられた。学内のほかの建物とは趣を異にし、まさに“宝物殿的な存在”だった。地上4階建て。3、4階の一部は研究所等となっていたが、他はすべて図書館施設だった。



▲校倉造りが印象的な当時の図書館本館

専任職員は、図書館本館に17名、ライブラリーサービスセンター（以下LSC）に1名、法學文献センター（以下LLC）に1名、豊田図書館に7名と総勢26名。このほか数十名の非常勤職員が4館で専任職員をサポートしていた。

本館での専任職員は業務を分担し、発注・受入担当、図書整理担当、雑誌整理担当、閲覧担当に別れていた。発注・受入業務は、教員や学生から希望があった図書や雑誌を書店に発注し、受け入れ、図書・雑誌の整理業務は受け入れた図書や雑誌の主題（内容）を日本十進法分類法（NDC）に基づいて“戸籍”をつけ、配架する仕事、閲覧業務は、配架された図書や雑誌を利

## CULIB HISTORY

用者の求めに応じて、閲覧貸し出し、加えて研究等のための情報を提供する業務である。

図書整理と雑誌整理業務には、それぞれ和書担当と洋書担当があった。特に洋書担当は、英語やドイツ語などの語学に堪能な司書有資格者が専任職員として採用され、業務にあたっていた。

当時の本学図書館の職員は、司書資格を必要とし、大学事務職員とは別に図書館専任職員として採用されるという体制だった。英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語に堪能な職員も1名ずつ配置されていた。

しかし、20世紀の終わりから21世紀始めにかけて、全国の大学図書館や国立国会図書館、学術情報センター（現・国立情報学研究所）などで推進された「所蔵資料のデータベース化」の流れが、「語学堪能な司書有資格者」の活躍の場を奪う結果となった。

所蔵資料の登録や貸し出し状況をパソコンに登録するデータベース化（電子化）は、公共図書館・大学図書館を問わず、全国の図書館で推進され、2000～2002年にピークを迎えた。全国の図書館や国立国会図書館、学術情報センター（現・国立情報学研究所）をつなぐネットワークも構築され、それぞれの作成したデータベースを交換利用することも可能となった。

図書館専門員（ライブラリアン）を自負していた人々が、利用者のためにプライドをかけて構築したデータベースは、確かに図書館利用の利便性を向上させた。検索による所蔵確認やコピー依頼（ILL）が簡単に、しかも迅速にできるようになった。しかし、その結果、語学能力があまりなくても外国図書のデータ作成が構築できるようにもなり、語学堪能な司書有資格者が図書館から姿を消すという皮肉な事態を招来した。

一方、平成7（1995）年に設置されたLSCと平成10（1998）年に完成したLLCは、ほぼすべてが開架式の閲覧サービスを中心とした図書館であり、専任職員を責任者として非常勤職員数名でカウンター業務をこなしていた。また、豊田図書館は、本館同様に担当を決めて運用していたが、洋書担当者は置かず、本館で整理をして豊田図書館に送る方法で対応していた。



▲図書データベース検索端末機（iMAC）

2000年当時は、図書館が既存資料のデータ入力（遡及入力）を始めてから11年が過ぎようとしていた。当時の図書館蔵書数は、全館で約60万冊あり、データ化された資料は約50%の30万冊に及んでいた。その資料を検索するためのOPAC（Open Public Access Catalog）は既に設置されていてVT端末と呼んだ。検索も結果もすべて文字情報のみで表示されるCUI（Character User Interface）による端末機だったが、LSC開館時には、すべてのOPACをパソコンにし、大学内で最も早く図書館

## CULIB HISTORY

ホームページを作り CUI から文字と画像の表示ができる GUI (Graphical User Interface) による検索結果を表示できるようにした。本館では、当時、爆発的な人気で話題を呼んだ iMac を3台検索端末機として使用し他の大学図書館では見られなかったユニークな環境を作った。

資料のデータ化作業は、毎年約1万冊に及ぶ新規購入図書資料と併せて、遡及入力も継続された。毎年約1万冊の蔵書が増えることで書庫スペースがどんどん手狭になるという問題が発生し、遡及入力作業と同時に重複図書資料の廃棄も実施した。同じ館に2冊以上ある同一資料の3冊目や、雑誌の中であまり価値がなく利用されなくなった古い雑誌資料を廃棄処分対象として図書委員会で審議し廃棄した。

### 遡及入力

今までカード目録で所蔵管理されていた資料をデータベース化する作業のこと。カード目録上に記載された図書資料の書名、著者名、出版社、出版年、ページ数、本の大きさ、内容注記などを、決められた入力規則に従って、データ入力端末機で入力作業をし、データベースを構築していった。

このように、資料のデータベース構築を進める一方で、廃棄図書の選別や判断を行い、収蔵キャパシティを考慮しながらデータ入力に人手がかかった時期に、私立大学図書館協会の会長校就任の話が持ち込まれた。

## 第2節 会長校への就任

私立大学図書館協会は大学図書館の改善発展を図ることを目的に、これに関わる調査・研究およびその成果の刊行や研究会・講演会の開催、機関誌の刊行などの諸事業を行っている。

歴史は古く、前身は昭和5年に設立された東京私立大学図書館協会である。この8年後の昭和13年に関西地区の大学が加わり、全国私立大学図書館協議会と改組された。昭和18年5月の第6回総会において規約の改正が認められ、「私立大学図書館協会」と改称された。

東京部会と関西部会の2部会で運用、愛知県を含む中部地区の加盟館は昭和25年まで東京部会に属していたが、昭和26年に関西部会に移管された。その後、昭和40年に関東部会・関西部会の呼称を現在の「東地区・西地区」に改称、東地区は静岡・長野・新潟以東、西地区は愛知・岐阜・富山以西の区域と改正された。

こうした経緯から、長年にわたり東京部会と関西部会の大手大学図書館が中心となり、それぞれが常任理事校や理事校・監事校となり運用された。平成時代に入り、加盟館の増加に伴って理事担当校が増加され、平成8年には常任理事校を会長校、部会担当理事校を部会長校と呼び名を変えた。



## CULIB HISTORY

会長校就任前年には、会長校としての職務を習得するために、5名の職務担当者は前会長校の担当者に随行して、水戸黄門の全国行脚の如く、両地区で開催される行事に参加した。会長校の役割はまさに“お世話係”だった。

これらの経験を経て、平成13（2001）年に中京大学図書館は私立大学図書館協会会長校に就任し、いよいよ本番を迎えたのである。

### 第3節 多忙極まる会長校の活動

平成13（2001）年から平成14（2002）年の私立大学図書館協会会長校の2年間の活動は、激務だった。大まかな年間スケジュールを書き出すと、次のようになる。

- |    |  |     |  |
|----|--|-----|--|
| 4月 | ▪ 第1回常任幹事会（東地区）<br>▪ 第1回東地区部会役員会（東地区）  | 9月  | ▪ 第2回西地区部会役員会（西地区）<br>▪ 西地区部会研究会（西地区）    |
| 6月 | ▪ 第1回西地区部会役員会（西地区）<br>▪ 西地区部会館長懇話会（西地区）<br>▪ 西地区部会総会（西地区）<br>▪ 第1回東地区部会役員会事務連絡会（東地区）<br>▪ 東地区部会総会、館長会、研究講演会（東地区） | 12月 | ▪ 第2回常任幹事会（西地区）                          |
| 8月 | ▪ 第2回東地区部会役員会事務連絡会（東地区）<br>▪ 第1回東西合同役員会（東地区）<br>▪ 私立大学図書館協会総会・研究大会（隔年で東と西）                                       | 1月  | ▪ 第2回東地区役員会（東地区）                         |
|    |  | 3月  | ▪ 第3回西地区役員会（西地区）<br>▪ 第2回東西合同役員会（隔年で東と西） |

会長校は在任2年間に、これらすべての会に誰かが出席することとなる。“誰かが”とは言うものの、館長が1人で出席することはない。館長が何処かへ行くときは必ず事務長なり課長なりが同行した。事務長が動けば、課長か係長が同行した。このように会長校在任中は、必ず2人以上が各会に出席した。特に多忙を極めたのは課長である。東京や京都、大阪、広島、福岡へと移動の日々が重なり、文字通り東奔西走して、ほとんどの会に顔を出した。その甲斐があって、「中京大学図書館」の名前は全国にその名が知れわたるようになった。

#### 筆者（加藤恭輔＝当時・名古屋図書館課長）の回想

その頃、月に5・6回は新幹線を利用していた。しかし、あまりの激務に、会長校に就任して半年を過ぎた頃には、新幹線の窓側座席に座ると閉塞感に苛まれるようになった。通路側の席でないと、気分が落ち込むようになったのである。1度だけ東京～名古屋間でグリーン車を利用したことがある。東京で開かれた委員会が、午後5時30分に終了した。金曜日の夜ということもあり、午後6時～7時台の帰りの新幹線は、グリーン車以外すべて満席だった。名古屋まで立ち続けて帰ることも可能だったが、思い切って自腹を切り、グリーン車両に乗った。すると、疲弊した気持ちが一掃され、新たな意欲が湧き上がってきた。その後の会長校業務を全うできたのは、グリーン車のゆったりした空間に、心が癒されたおかげだと思う。

---

---

## CULIB HISTORY

---

---

### 第4節 会長校として得たもの

毎年6月に開催される西地区部会役員会・総会と東地区部会役員会・総会、3月に開催される西地区部会役員会と東地区部会役員会には、長谷川館長はじめ、会長校業務に関わる5人全員が出席した。6月の総会の前日に開催される役員会では、地区の事業報告・会計報告を聞き、新年度の事業計画や予算案について審議検討に加わった。その地区部会の実情をしっかりと把握する責務があった。3月に開催される西地区部会役員会と東地区役員会では、1年間の活動の反省と新年度に向けた活動計画を、それぞれの部会役員校と話し合った。

会長校として最も重要な会議は、8月に開催する私立大学図書館協会総会、および総会の前日と年度末に開催する2回の東西合同役員会である。それぞれの部会の情報交換や実情報告を行い、全国レベルでの協会運営をスムーズに進めるために非常に重要な会合だった。

私立大学図書館協会の最も大きなイベントは、毎年1回夏（8月末から9月初旬）に開催される総会・研究大会だ。全国加盟館の多くが出席し、500名にも及ぶ出席者の前で、会長校は当該年度の事業報告や会計報告をしなければならない。

次年度の事業計画案の承認や予算案の審議承認など、協会としての活動報告事項や審議事項について、司会進行と取りまとめも行わなければならない。もちろん会計報告・事業報告、会計案・事業計画案などは事前に会長校が作成し、東西合同役員会で承認を得たものを総会・研究大会で報告・審議した。

これらの経験は、本学図書館の会長校担当者はむろんのこと、本学図書館そのもののレベルを一段も二段もアップさせた。それまでの中京大学図書館は、中部地区での認識度は高かったが、全国レベルでは、低いと言わざるを得ない状況だった。大学図書館界においては、どうしても東京、大阪、京都がメインで、中部の大学は関西の一部に過ぎなかった。

そんな中、中京大学図書館が会長校を経験したことで得たものは多かった。中京大学の名を全国の大学図書館に認知してもらい、全国主要な大学図書館（慶応、早稲田、明治、東海、関西、関西学院、同志社、立命館、京都産業など）との情報網もできた。

会長校を退任して以降も、各大学の最新情報を入手したり、利用者サービス改善につながる有益な情報交換をしたりすることが可能になった。最新の情報に触れ、大学図書館としてあるべき姿がイメージできるようになった。本学図書館が将来に向かって大きく飛躍するため、全国の大学図書館と現在も親密な情報交換が続けられていることが、何よりの成果ではなかったろうか。（続く）

（名古屋図書館参事 加藤 恭輔）



『日本語練習帳』

大野 晋

岩波書店（岩波新書）

書名に「練習帳」とあるように、本書は読者が問題を解きながら解説を読む形式で書かれているので、興味をもちつつ読み進むことができる。構成は、Ⅰ単語に敏感になろう、Ⅱ文法なんか嫌い、Ⅲ二つの心得、Ⅳ文章の骨格、Ⅴ敬語の基本、の5章からなり、文章も読みやすい。

日本語に、ハとガという助詞があることは皆よく知っている。「中京大学は」「中京大学が」などとしばしば使う。では、ハとガにどんな働きがあるのか、知っているだろうか。著者は、ハの働きを4種、ガの働きを2種にわけて説明している。

日本語のハとガは、いったいどう違うのか。Ⅱ文法なんか嫌いの章を実際に読んでほしい。きっと小さな驚きがあるはずだ。

文学部 教授 浅岡 邦雄



『わかったつもり』

西林 克彦

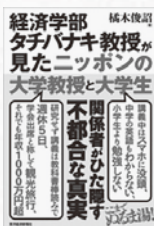
光文社新書

私のゼミでは週に1冊の読書を課しているが、最近「ここに書かれていることはあたりまえのことばかり。どうして先生はこんな本を選んだのか」と不満そうな表情をみせる学生がときどき現れるようになってきた。そこで私は学生に問うてみる。「あなたが『全部知っている』と言う場合には、大きく分けて二つの可能性があるように思う。ひとつは、あなたが誰もが認める碩学であって、この著者が書く程度のことならすべてお見通しである場合。もうひとつは、あなたが知らないことがたくさん書かれているのに、理解することができたわずかな部分だけを心に留めおき、それ以外のことは意識的か無意識的かはともかく、無視ないし見なかったことにする場合。さてどっち？」

ここで学生は言葉に詰まってしまう。私は、認知心理学の成果をふんだんに盛り込んで「わかったつもり」になるメカニズムを、興味深い事例をまじえながら平易に解説してくれるこの本を手渡す。そうすることで「早合点しないだね。思考停止に陥らないだね」とのメッセージを届けているつもりなのだが、果たして…

経営学部 教授 梅田 守彦

書籍紹介 先生編



『経済学部タチバナキ教授が見たニッポンの大学教授と大学生』

橋本 俊昭

東洋経済新報社

高校から大学に進学したとき、みなさんはどのような大学生活をイメージしたでしょうか。元日本経済学会会長の橋本俊昭京都大学名誉教授が近年の大学事情を明らかにしたのが本書である。大学生であっても知らないニッポンの大学教授はどのような仕事をしているのか、ニッポンの大学生の生活はどのようなものなのか、過激に書かれている。ニッポンの大学を取り巻く環境は変化し、社会から厳しい改革が求められている現状を示し、それらに基づく改革案の提案も書かれている。大学に入学すれば、4年間は楽に暮らせると考えていた大学生にいろいろな課題や問題が直面し、入学前の「夢」と入学後の「現実」の差が生じる理由を本書は教えてくれるだろう。

総合政策学部 教授 大森 達也



『けもの道の歩き方  
— 猟師が見つめる日本の自然 —』

千松 信也

リトルモア

狩猟免許をもつ「狩りガール」や、野生の鳥獣肉を使ったジビエ料理が注目を集める現代社会。本書が多くの人々に親しまれている背景に、近年のこうした「狩猟ブーム」なるものがあるのはたしかである。だが、本書の真の魅力は、狩猟の瞬間における動物と人間のぬきさしならぬ関係を驚くほど精緻に描出している点にある。狩猟の目的は食糧調達だと言い切る筆者は、京都市中心部からそう遠くない場所に居を構え、昼間は運送会社で働き、時にはコンビニで買い物もする現代の猟師だ。「生活者としての猟師」たる筆者の言葉には、動物に対する穏やかなまなざしと人間社会に対する透徹した批判精神が買われている。動物を畜獣や商品として見る限りは決して到達できない境地があることを、本書は教えてくれているのである。

現代社会学部 准教授 岡部 真由美





『学校って何だろう』

荻谷 剛彦

講談社

「学校って何だろう」…このような疑問を抱いてきた人は少なくないだろう。私自身このことについて考える機会は何度かあったが、どのような視点からとらえていけば良いのかよくわからなかった。

親や学校の先生が、子供に対して「将来のために学校ではしっかり勉強しなさい」と説く場面がしばしば現れるが、はたして学校で教えられることのうちのどのようなものが、子供の将来のためになるのであろうか。

この本では、学校の隠れた本質をあばきだし、その「本質」は生徒たちにどのような影響を及ぼすのかがわかりやすく説明されている。読後には、今まで漠然としか感じることはできなかった学校の存在意義がはっきりと理解でき、そこでは勉強ばかりでなく社会に出るために必要なスキルが知らず知らずのうちに身につけさせられているプロセスが組みこまれていることに気付くだろう。学校での教育に一度でも疑問を持った方に一読をおすすめしたい。

経営学部 3年 押村 涼平



『愛と幻想のファシズム』

村上 龍

講談社

「ファシズム」と聞いて思い浮かべるのはヒトラーやスターリンであろう。それが「悪」であると私達は学校で教えられてきた。この小説のヒーローである鈴原冬二は、1990年代の世界恐慌により経済崩壊が始まっている日本で、政党を率い、世界支配をもくろむ「ザ・セブン」という多国籍企業などのシステムに抗う手段としてファシズムを用いる。ヒトラーやスターリンが推進した政治経済体制とは違う形でのファシズムであり、現実世界では起こりえない。しかし、あまりにリアルな展開に、「いつか本当にこんなことが起こるのではないか」と読者に思わせてしまう。まぎれもなく「幻想のファシズム」である。

執筆されたのは1980年代半ばだが、90年代のバブル崩壊を予告しているようで、現代でもその面白さは色あせない。村上龍の圧倒的な情報量とセンスを見せつけられる、読みごたえのある小説だ。多くの人に是非読んでほしい。

現代社会学部 2年 熊崎 款祐

## 書籍紹介

学生編



『新釈 走れメロス 他四篇』

森見 富美彦

祥伝社文庫

「やはり俺はここで約束を守るわけにはいかない。そんなつまらぬ羽目になっては芹名に申し訳ない。彼の期待に応えなければ！」

時は現代、場所は京都。友達は主人公が絶対裏切ると信じている、だからその信頼に応えるためにも、主人公は友を裏切らなければならない、という倒錯したストーリー展開である。太宰治が書いた作品と似ているようで似ていない「新釈」走れメロスだ。

他の4篇も、日本文学の名作の主人公たちが、青春をこじらせた大学生として登場する内容に生まれ変わっている。重い話ではない上に短編集なので、気軽に移動中にも読むことができるのも特徴だ。ぜひ元の作品を読んでからこの本を読んでほしい。すると「なんであの話がこんなことになったんだ!？」と思うだろう。でも笑える。こんな解釈もありだなという気持ちになって読むことができる一冊だ。

総合政策学部 3年 下村 慎太郎



『クビキリサイクル』

西尾 維新

講談社

この作品は、名前も不明の語り手の少年と、生活能力が一切ない代わりに天才的頭脳を持つサヴァン症候群の少女が主人公の物語である。著者は小説から漫画の原作、脚本も手掛ける鬼才・西尾維新だ。

物語は、主人公の2人がある孤島を訪れる所から始まる。大財閥の令嬢が使用人達と、自ら招いた曲者揃いの客人たちと共にひっそり暮らすその島で起こった連続殺人事件—その複雑怪奇な謎に2人が挑む。私事ではあるが、私が言語表現学科で日本語学を志すきっかけとなったのがこの本である。他の小説とは一線を画す独特の表現と、巧妙に張られた伏線とそれにつながる衝撃のトリックが魅力的なミステリー小説となっている。日本語表現の可能性を広げた作品といっても過言ではないこの本、ぜひ一度手に取って頂きたい。

文学部 2年 永山 明 (あかり)

LEARNIG  
SQUARE

## 豊田図書館「ラーニング・スクエア」

昨年9月開設 ゼミやグループ学習を支援

## 自由で多様な空間

豊田図書館に昨年9月オープンした能動的学修支援施設「ラーニング・スクエア」は、教員と学生がゼミナールの事前打ち合わせに使ったり、パワーポイントを共同制作したりと、幅広く活用されている。2013年度から先行的に運営が開始された名古屋図書館のラーニング・スクエアとともに、従来の授業形態とは異なった形で、学生の学習意欲を刺激し、学生同士が切磋琢磨するグループ学習の場として注目を浴びている。

豊田図書館のラーニング・スクエアは本学の長期計画「NEXT10」の中で事業採択された。広さは名古屋図書館の施設に比べてやや小規模だが、プレゼンテーションや討論など、利用目的に応じて多様な使い方ができる空間となっている。スクエア内に簡易間仕切りが設置され、空間を区切って利用することが可能なため、名古屋図書館にはない特徴だ。貸出用パソコン20台とプロジェクターも備えてある。



連日賑わいを見せる豊田図書館ラーニング・スクエア

学生たちは、用途に合わせたミーティング形式を自由に作り出し、知識や情報を共有しアイデアを膨らませる場として、積極的に活用している。

## 好調な滑り出し

昨年9月15日のオープン以降、12月末日までの利用状況の推移を見てみよう。開設当初の数日間こそ、個人学習席の延長レベルの利用が多く、「声を出してディスカッションする」風景はあまり見られなかった。オープン前からポスターや掲示、利用者への直接案内等で活用方法をアウンスしてきたものの、秋学期開始と時期が重なり、学生たちが履修登録に時間が割かれたことも影響したかもしれない。

しかし、1週間を経過したあたりから徐々にその効果が表れはじめ、ゼミ単位によるディベ

トやプロジェクターを利用しながら学習する姿が見受けられるようになった。図書委員を中心とした先生方に、利用促進への協力を要請したことも功を奏した。

さらに、こうした様子を他の利用者たちが目にすることで、利用方法の問い合わせ件数や貸出用ノートパソコンの利用者数が伸びはじめ、時間帯によっては、ほぼ満席の状態になる日も出始めてきた。



ラーニング・アドバイザーによる指導風景

10月からは、学生たちが論文やレポートの書き方、調査研究の方法などを相談する「ラーニング・アドバイザー」が配置された。既設の名古屋ラーニング・スクエアにおけるノウハウを十分に理解し、改善点等も事前に指導された彼らは、「利用者への積極的な声掛け」とともに懇切丁寧なアドバイスを重ね、きめ細かな活動を見せている。

その効果も手伝って、ラーニング・スクエア利用のリピーターも増加し、10月中旬からは午後を中心に、10セット程度設置してあるデスクの7割以上が利用されるようになった。貸出用パソコンの利用者数も着実に増加傾向にあり、返却待ちの利用希望者が出るほどだ。

## 満足度向上へ新施策

好調な滑り出しとなったが、今後さらに利用者の満足度を向上させる施策を講じていく必要がある。

新年度からの強化構想としては、スタッフによる定期巡回（レファレンス相談や個室利用の誘導等）、スクエア内学修資料の充実（推薦資料によるグループワークへの取り組み推奨等）、各種イベントへのスペース提供（ラーニング・アドバイザーによる講座や他部署・体育会・文化会との連携企画等）、教員を交えた組織による利用者拡大施策の実施（FD委員会や図書委員会を介しての検討等）、利用者ニーズの把握と要望に即した改善（常設の意見箱の設置等）が挙げられる。

併せて、名古屋図書館と連携し、利用者の動向調査に注力しつつ、施設の有効利用に向けた創意・工夫に努めていく考えだ。

（豊田図書館課長 森下 克人）

# 2016年度 図書館カレンダー

図書館の一年間の開館予定がご覧になれます。

各館ごとの臨時休館、開館時間の変更等は、図書館ホームページの【ニュース】でご案内いたします。

## ◎通常の開館時間

	名古屋図書館 (NL)	ライブラリーサービスセンター (LSC)	法学文献センター (LLC)	豊田図書館 (TL)
平日	9:00～22:00 <small>(中京大学の教職員証・学生証をお持ちでない方は下記時間内に入館して下さい 平日9:00～19:00、土曜日9:00～15:00)</small>	9:00～20:00	9:00～19:00	9:00～20:30
土曜日		9:00～12:30	9:00～12:30	9:00～17:30

## ◎日付の色について

無印は通常開館日

○の開館時間 (全館 平日9:00～17:00、土曜日9:00～12:30)

■は休館日

●の開館時間 (定期試験月の休日開館日 10:00～17:00 (LSCのみ))

■はオープンキャンパス、ホームカミングデー時間帯開館日 (9:00～16:00)

名古屋図書館 (NL)							ライブラリーサービスセンター (LSC)							法学文献センター (LLC)							豊田図書館 (TL)						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					①	②						①	②						①	②						①	②
3	④	⑤	6	7	8	9	3	④	⑤	6	7	8	9	3	④	⑤	6	7	8	9	3	④	⑤	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30	24	25	26	27	28	29	30	24	25	26	27	28	29	30	24	25	26	27	28	29	30
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28
29	30	31					29	30	31					29	30	31					29	30	31				
			1	2	3	4				1	2	3	4				1	2	3	4				1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11	5	6	7	8	9	10	11	5	6	7	8	9	10	11	5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18	12	13	14	15	16	17	18	12	13	14	15	16	17	18	12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25	19	20	21	22	23	24	25	19	20	21	22	23	24	25	19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30			26	27	28	29	30			26	27	28	29	30			26	27	28	29	30		
					1	2						1	2						1	2						1	2
3	4	5	6	7	8	9	③	4	5	6	7	8	9	3	4	5	6	7	8	9	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	⑩	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	⑰	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23	17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	⑳	⑳	25	26	27	28	29	⑳	24	25	26	27	28	29	⑳	24	25	26	27	28	29	⑳
31							31							31							31						
	①	②	③	④	⑤	6		①	②	③	④	⑤	6		①	②	③	④	⑤	6		①	②	③	④	⑤	6
7	⑧	⑨	10	11	12	13	7	⑧	⑨	10	11	12	13	7	⑧	⑨	10	11	12	13	7	⑧	⑨	10	11	12	13
14	15	16	17	⑱	⑲	20	14	15	16	17	⑱	⑲	20	14	15	16	17	⑱	⑲	20	14	15	16	17	⑱	⑲	20
21	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	21	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	21	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	21	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
28	㉖	㉗	㉘	㉙			28	㉖	㉗	㉘	㉙			28	㉖	㉗	㉘	㉙			28	㉖	㉗	㉘	㉙		
				①	②	③					①	②	③					①	②	③					①	②	③
4	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	4	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	4	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	4	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
11	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	11	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	11	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	11	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
18	⑱	⑲	20	21	22	23	18	⑱	⑲	20	21	22	23	18	⑱	⑲	20	21	22	23	18	⑱	⑲	20	21	22	23
25	26	27	28	29	30		25	26	27	28	29	30		25	26	27	28	29	30		25	26	27	28	29	30	

発行 中京大学図書館

〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2 TEL(052)835-7157 [http://www.chukyo-u.ac.jp/research\\_2/library/](http://www.chukyo-u.ac.jp/research_2/library/) 印刷 株式会社一誠社